

特別展
虫めづる日本の美
— 養老孟司×細見コレクション —

虫博士が問いかける「自然とは何か？」— 虚実を超える美の世界 —

解剖学者の養老孟司は、無類の昆虫愛好家、昆虫学者としても知られ、世界各地を訪れて、不思議と驚異にみちた虫たちの生態を探求しています。古来、我が国の人々は、ゆたかな風土に育まれた様々な虫たちに親しみ、その姿を写し愛でてきました。

本展では、養老孟司が細見コレクションから選ぶ、虫を表した絵画・工芸作品約60点を紹介します。写実の精緻を極めた伊藤若冲の「糸瓜群虫図」、宝石のような虫たちが鏤められた蒔絵の小箱など、みずみずしい好奇心にあふれる虫博士の眼が出会った、日本の美に息づく儚くも美しき生命を、どうぞご鑑賞ください。

加えて養老孟司が親交を結ぶ作家の、独特な自然観やデジタル技術によって表現された作品も紹介します。

— 展覧会要綱 —

1. 展覧会名称 特別展「虫めづる日本の美—養老孟司×細見コレクション—」
2. 会 期 2021年10月29日(金)～2022年1月23日(日) ※一部展示替えあり
3. 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)、年末年始(12月27日～1月4日)
5. 入 館 料 一般 1,300円 学生 1,000円
6. 主 催 細見美術館 京都新聞
7. 監 修 養老孟司（東京大学名誉教授 京都国際マンガミュージアム名誉館長）
8. 特別協力 有限会社 養老研究所 新潮社
9. 企画協力 足立真穂
10. 会 場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
<http://www.emuseum.or.jp>
11. 本展連絡先 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚 kouhou@emuseum.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクをご着用ください。また、急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。



養老 孟司 ようろうたけし

1937年、鎌倉市生まれ。東京大学医学部卒、大学院医学系研究科修了、医学博士。同大学助手、助教授、1981年教授。東京大学総合資料館館長。1995年東京大学医学部教授を退官。同大学名誉教授。1996-2004年北里大学教授。大正大学客員教授。京都国際マンガミュージアム名誉館長。

著書に『唯脳論』『身体の文学史』『人間科学』『バカの壁』『死の壁』『養老先生と遊ぶ』(監修)ほか多数。1989年、『からだの見方』でサントリー学芸賞受賞。『バカの壁』は420万部を超えるベストセラーとなり、2003年の新語・流行語大賞、毎日出版文化賞特別賞を受賞。

小学校4年生から昆虫採集をして標本を作製。現在は神奈川県箱根に通称「養老孟司昆虫館」(非公開)を持ち、鎌倉の建長寺に虫塚(設計:隈研吾)を建立、毎年6月4日「虫の日」には虫供養を行う。現在はゾウムシの分類に凝る。昆虫に関する論文も多く、新種もいくつか記載している。

— 展示構成と主な出品作品 —



魂はこぶ虫

[主な出品作品]

蝶鳥下絵法華経断簡 平安中期

重要文化財 羽黒山御手洗池出土銅鏡 平安後期

重要文化財 羽黒山御手洗池出土銅鏡のうち 網代蝶鳥鏡 平安後期



詩歌・物語の虫

[主な出品作品]

住吉如慶 きりぎりす絵巻 江戸前期

祇園祭礼図屏風 江戸前期

住吉如慶 きりぎりす絵巻 下巻(部分) 江戸前期 ※場面替えあり

細見美術館



秋草虫蒔絵螺鈿小箱 江戸前期

虫がかざる

[主な出品作品]

秋草虫蒔絵螺鈿小箱 江戸中期

能装束 牡丹蝶文様唐織 江戸前期



伊藤若冲 糸瓜群虫図(部分) 江戸中期

虫を写す

[主な出品作品]

伊藤若冲 糸瓜群虫図 江戸中期

四季草花草虫図屏風 江戸後期



森狙仙 猿図 江戸中期

虫を想う

[主な出品作品]

森狙仙 猿図 江戸中期

重要文化財 金銅春日神鹿御正体 南北朝時代

細見美術館

特別展示 虫博士が贈る美しき虫の世界



ホウセキゾウムシの標本(部分)



TOBIKERA
小檜山賢二



photo by Yusuke Nishibe

Ready to Fly
山中俊治 + 齊藤一哉 + 杉原寛 + 谷道鼓太郎 + 村松充



おさむしの合子
分島徹人



マユタテアカネの石製香炉
佐藤正和重孝



資料（画像）・取材をご希望の方は、ホームページリリースページ
もしくは左記QRコード「資料（画像）申込フォーム」からお申込み
ください。